х. Х.	第 45 号	広報てらどま
新潟県三島郡寺泊町 寺 泊 町 役 場 発 行 総 務 課:編 集 全世帯もれなく配布	く 本 に は 消決 土 の 四 対 前 、 最 近 る に 水 志 土 の 面 日 単 加 し た い る の た い の た い む た い る の た い る の た い る 、 し た も の た い の た い 記 本 に か た い こ っ た い の た い こ 本 た い た い た い こ 本 た い の た 、 の た 、 の た 、 の た い の た し 、 、 、 、 た い の た 、 、 た い た 、 、 た い の た 、 、 た い の た 、 、 た 、 、 、 ち っ た い の た 、 、 、 、 、 た う 、 た 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	の交通災害共済組合に加入し 常年の風雲ン 一 匹勤王精一郎伝 「町豊協前に「贈従五位本」であつた。その頃精一郎は専 片町豊協前に「贈従五位本」であつた。その頃精一郎は専 片町豊協前に「贈従五位本」であつた。その頃精一郎は専 にに場った。その頃精一郎は専 た石碑がある。史家德富猪一」ていた。京阪に多くの知己が 二二の一方を五〇万円までのお 一匹勤王精一郎伝 二二場一部一日の 一日一円の掛金(大人年三六 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二
三月定例町議会終る	から青蓮院の宮(後の久邇治の大立者となったである。 「本間の突き」というハックのない一刻殺されたのである。 ちわれない大きな社会革命を した。純粋な尊王の大義を説き にも秀で、身体大きく衣服立 た。純粋な尊王の大義を説き にも秀で、身体大きく衣服立 たの北路のと考える。だ しかし彼は負けずに活躍し 下で恐れられた武芸者で文学 したいたものと考える。だ という。もし生きていたら明 たいう。もし生きていたら明 たのである。 「本間の突き」は千葉周作門 にお野	E
公営立会演説会条例等可決 度予算成立 明議会終る 昭和四十五年度予算および 「、寺泊小学校	志士を訪ね廻つた 高禄を食んでいわれるもの達 ながたうやすやたを訪ね廻つた たりない たの子やすやたか眠して たかろう 文支 小林浩一郎 精一郎 精一郎 精一郎 たた たた たた たた たた た た た た た た た た た た た	
時 00 副 体 高 音 - 校 館 の を 施 新	、 弁才天、 川崎 、 下 営 生 せ な た も の 生 、 二 千 円 の 子 の 健 健 行 派 町 町 に 立 り っ ち 志 た も の で た な り 、 野 ば ら れ ま す 。 、 町 に た り 、 町 に た り 、 町 に た り 、 町 に た り 、 町 に た り 、 町 に た り 、 町 に た り 、 町 に た り 、 町 に た り 、 町 に 力 た む た た り 、 町 に つ ち の 、 男 た し に な り 、 元 十 一 万 ん い に な り 、 五 十 一 万 た う で 読 た い の 広 見 、 た し た た り 、 町 に た り 、 む た し て た り 、 五 十 一 万 た の で 、 の た 、 の で は 、 、 町 に 、 の で は 、 、 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 の で は 、 、 、 に 、 の で は 、 、 、 、 、 に 、 の で は 、 、 、 、 に 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 一 、 一 て 一 て ろ 、 、 、 、 、 、 一 、 ろ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	
件。の三件を、又 陳 情 は 定件。の三件を、又 陳 情 は 定件。町 道 年 友 法騎動功能を引きれた。 前語願は、蔵場町道路舗装 の件。閘 道 年 友 法騎動功能を必要 がたちの にたり、町長ならびにそれ でに る間発計画の策定等々につ に たなりました に たなりました に たなりました に たる に る た の 三件を、又 陳 情 は 定 に な の 三件を、 で え た の り ま した り 派 した り 派 の に の の 代 の 、 町 長 な り で に る の 式 に で る の 式 に と る り で に に る り る で に に と ろ り る の に に ろ に る う で に ろ の で に ろ の た の う る の に の の の の の の に ろ の の の に の ろ の の の の	 こうゆう(牛乳を支給す う制度)ことは良い事です う制度)のんで元気な双子の 	ろをパチリ、おかあろをパチリ、おかあ うけ、まずはおす。 におじ町乳の支給を受 た上町乳の支給を受 たましてみま たったします。 下桐、俗田 、 、 、 、 、 、 、 下 桐、俗 、 、 、 田 町 、 の 、 、 、 、 下 柄、 、 、 、 、 下 に 、 、 、 、 、 、 、 、 下 、 、 、 、
ご 苦労様です。 優ん 天 の な ま した会議が日後の で ま した会議が日後の ま した会議が日後の で ま した会議が日後の を ま した会議が日後の を ま した会議が 日間の 新 就 朝 朝 む 日 の の い や ご 協 の 引 和 税 謝 謝 構 売 の い で も た た 会議が 引 税 報 謝 が 報 読 の 引 和 税 謝 謝 端 続 弱 の 可 氏 の の い 役 し に 会 識 が の 町 氏 の の い で ま れ の 或 が の 町 長 の の の 町 長 か ら の 新 か や う 参 務 が の で ま れ の 或 が の う れ の 数 動 が の し た 会 識 が 別 役 し た 会 識 が 別 役 し た 会 識 が の し た の 読 が り の た ご る 物 あ す っ こ こ 協 の 、 に 二 と あ か ら の 家 新 般 聞 聞 一 こ こ こ 海 、 れ い た 二 こ ら 派 れ 、 の の た 二 こ ら 派 れ て の の も っ た こ こ ら 派 れ に こ こ 海 、 れ い た こ こ ら に 、 れ い た こ こ ら に 、 れ い た こ こ ら に 、 れ い た こ こ ら に 、 れ い た こ こ ら に い た い た こ こ ら 、 れ れ い た こ こ ら 、 れ い た こ こ ら 、 れ れ た こ こ ら れ 、 れ 、 た こ こ ら 、 れ か た こ こ ら 、 れ 、 れ の 、 の 、 の 、 の 、 の の 、 の の 、 の 、 の の の の の の 、 の の の の ら の う の の の の の の の の の の の の の	計算誤り等があることが解っ たときは、次のような手続き ができます。 も一修正申告した税額が少ない場合 確定更正請求をして下さい。 確定明告を忘れていた場合 確定期限後申告した税額が多すぎたと きに更正請求をして下さい。 る。 期限後申告告を決定がある場合 ない。 もしいことは、税務署又 は役場の税務課へご相談下さい。 い。	終了しましたが、その申告に 終了しましたが、その申告に
 株組合、十年完納の二組合五 キのご熟都な登せられたより キのご熟都な登せられた方 市 市 市 市 市 市 市 市 二 市 二 市 二 市 二 二	新潟県知事選挙 投票日は 4 月	の 26日です
勤	みんなそろつて投	漂しましよう



まり	昭和45年4月20日 (4)
一日一円の掛金(大人年三六 2023)の交通災害共済組合に加入し、100万重災害共済組合に加入し、100万元	くな通ってた四 死〇 わを づ
3年度着工本年中 二五〇ミリ送水 (場施設工事が急 二一部通水。さら	
	#c #c #c #c 北島 れ.北加 こころ た 北加 こころ た 北加 こころ た 北加
	してありますが支所本庁 の結時に自損による交通 た変よろこばれております。 でも設任ております。 の給付額は約四十件一の 事故、全通 のお付額による交通
一合の牛乳がくばられる	銀鮮 おどる活況 めざして 魚がとれない不満が続くと 造りを目ざして、毎年中古の 造いたとしまで国の漁業構 整をつづけてやり、41年から 逸歌を目ざして、毎年中古の 造りを目ざして、毎年中古の 造りを目ざして、毎年中古の た。 の大陸欄に大是につくつ た。 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一
と言うそばから、おばあちやと言うそばから、おがあたられることは、ほんとにあげられることは、ほんとにあげっ、ゴルンドの知識が、乳先に	投入される魚しよう
火	災のシーズンです
	との 用 心
	火事の注意も 家事のうち
	寺泊消防本部

重力

車

1.5t以上4.0t未満

4.0t以上

貸 1.5t 未満 自 1.5t 以上4 動 車 4.0t以上

その他

路線

その他

昭和45年4月20日 マシンプログランドを行ったいという。 「又夏戸小学校にブール建設す」 「なたとで二百十万円が本年度」 事業として含まれておりました。

広	報	τ		6	ど	Ŧ	IJ		Ħ	召和4	5年	4月	2 0	E .	(2)	
ž	であります。	費が約二百万円、	会活動費です。	り、大部分	壱千二二	議		概							-	<u>a</u> .
	であります。	自万円、議	です。又議	大部分が町議会議員の議	壱千二百九十九 万 円 で あ	AR #		要								N ■
						Ĩ									一般	
ります。	が、補助金	一、へき地	ており、保	尚国民年	ります。	五万円、さ	祉、 児童 福	R		画的に准	となって	成立			会	
ります。	が、補助金委託料等の国、豊かせきくなってましょ	【*** いたいのに 18)	ており、保育所八カ所(公立	尚国民年金事務費も含まれ	ります。	五万円、さらに国保特別会計	社、児童福祉関係の経費であ	生書		以上各款の概要画的に進め行政、	このような財源内	した一般会			般会計予算	
	ℚ; 県う	の経					せかった。 それで 会福			以上各款の概要を説明いたします。的に進め行政、財政、効率の高揚に	このような財源内容の予算から其の執行については一段と意をもちい、なつております。	いっ。 成立した一般会計予算は前年対比二十三%の伸びであります。	4	億六千五百万円の	算	
湯林	農水水	が国から支給されます。	三分の二、原材料は二分の	当額の補助があり、事務費は	あります。尚この事業費は相す。事業場は町道整備が主で	千百三十一万円 でありま	労	円余であります。 については国、県農政のすす。 たろいては国、県農政のすす。 たろうます。尚本町農業の方向み処理し尿処理しは三百八十 算面の接渉を進めるつもりで		いたします。効率の高揚に努めます。	昇から其の	前年対比 二		Ь Б		
P.	主義	言われます。	尿材料は 二つ	があり、小花	向この事業書	万円 であ	働費	祖金を含む		に努めます	の執行につ	1+111%6		6		
· //	后百	÷:-			資 か 主 で	りま	地の	六百八 百八十 に あ 算		́о	いては一	伸びであ		万		
に広域観光	円也となつ方円、水族	商工振興費と、この内容は五回	十三百八十		商		。 域に即した	については国、			段と意を	ります。		ŋ		
会に広域観光ルートの観光地ファイライン完成を機	万円也となつております。百万円、水族館費三百七十六	商工振興費と、観光振興費三この内容は五百七十万円余の	千三百八十七万円であり、		上費		- o 地域に即したあり方に進めま め方をみきわめながら、本町	については国、県農政のすっ				又財源はグラフでみるとおり約五○%が交付税		の		
//////	×				防費工	· 言言					特に主要施策の実施につい	クラフでム		使い方		
消防	1	れる見入であります。内シュンセツが大巾に進	備の負担金)防波堤延長、	七百六十四万円で、	防費等に二百万円、港湾豊又雪害×第翌一河川翌	自力に決測し合力高速で	りったときりい 構しの木橋が永久橋に 茶替さ	ましたので、初新橋(新陸道 海岸添道路が県道に移管され る大巾に進む見込であり、又			策の実施	へるとおり		11		
防費		進	的波堤延長、	口で、(港湾整	港門	(1) 力 合 姿 で	が久橋に架響さ	が県道に移管さい見込であり、			τ	約五〇%		方		
		めら 常備	港ば		い 初	> म्रे		し夜	-		はより計	が交付税				
教育		であります。	らぬ状況下	然、消防力	カイライン開通二工場誘致従えましてコロニー建設、	し合がつい	署になるまでは非常になるまでは非常	しました。 尚消防団員各	_					-		
費		であります。	ならぬ状況下最も近い将来	で必然、消防力強化も進めね	-124	と話し合がついております。はこ様力を願うことに消防団	客になるまでは非常出動の際に廃止しましたが、常設消防	尚消防団員各位の夜間宿置	-							Ξ
会	計	L		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	a -		際 防	置 に の 構成	<u></u>							
									030/0 030/0		<u></u>					
							1100.14.07 15:11.52 15:11.52	在村寨市村相当。 用金达了时期期。3.0	03 10/0 51 0/0 30/0 10/0							
			the shear the state			**	人金 4.11 %	A A A A A A A	14º/0 38º/0 16%							
	()))))					国庫支出	5.35 %		歳	7			5交付 1			
278 閏 20.(11 26					襟越金			厥	A			49.3			
20.0					Ę			町」税 20.67%								
							Ň									

		_ ~ ~ /		171 L V H
*************************************	主方のご転任 。	あります。	なた。 「二子四百八十万円でありま して、現在までの起街三十七 して、現在までの起街三十七	す。 事業とで とで する と で た う
一新年度に異動なされた中、小学校の先生方は次のと			。 年度分元利賞還金でありま	す。 す。 す。 として含まれておりま した。 子五百万円が本年室 なたとで二百十万円が本年室 のまとして含まれておりま
昭和44年度末 教職員人	、事異動名簿	く への NEEN	元で方	ま方にたった。
転入	転 出	の () () () () () () () () () ()	度度にあり	れておりまで、千五百万円
学校名 職名 氏 名 担任校 職名	名 氏 名 新 任 校 都 市 町 村 学校名			12 1 13
豊治小教 総 藤田永美子 三島 ∉ 由 天崎小 教 夏仁小校 及 田中謙四郎 北 魚 広 神 滝2×小 校		餐 昭和454	年度一般会计了	予算
★ 数 摘 "村杉永子 刈 羽 高 柳 山中小 数 , 野狼虫 校 長 「坪谷新太郎 小F谷 小F谷」 枚		歳 λ		(単位千円)
大河津小 攻 長 上村間作 西 御 参 入送給小 校 派 関川秀一 二島 サ泊 山ノ線小 数	•	款 別 1 町 税	本年度予算額前年度予算額 75,437 73,317	比 較 構成語合 5,120 20.67
· 教諭 坂垣喜六 见阳 见光小教。	論 山田三千夫 西蒲 吉田 書明神小	2 自動車取得税交付金	7,000 4,500	2,500 1.92
教諭 解良文子 島 准 品 誤曰小 教 山ノ編か 教 頭 金沢彦 至 長国 千季小 教		3 地 方 交 付 税 4 交通安全対策特別交付金	180,000 143,000 100 200	37,000 49.31 △ 100 0.03
教 游 坂 田 隆 子 古 志 山古志 利雪原中 教 教 論 田 村 邦 子 二 品 越 路 越路小 助教		5分担金及び負担金	6,117 4,389	1,728 1.67
		6使用料及び手数料	5,158 5,113	45 1.41
幸泊中教如 有本荣吉 北湯 豊浦 中浦中 枚	§ 佐藤六郎 吉蛤 朝日 三面小	7回庫支出金 8県支出金		△ 3,205 5.55 △ 3,330 3.03
教 歳 吉田 後恭 三島 和島 北長中 教 教 高 高野 正明 三島 与板 与坂中 教		▲ 9財 産 収 入		△ 2,207
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		10 寄附 金		△ 91 0.14
教諭 星野健藏 来近 安禄小温中教		11 繰 入 金 12 繰 越 金	15,000 0 25,000 15,000	15,000 4.11 10,000 6.85
		13 諸 収 入		△ 660 2.33
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		14 町 俊	7,900 1,700	6,200 2.16
大麻柳 枚 箱 江見 勉 西 講 西 刈 首都中 枚 約 安 達 義 雄 三 島 寺 泊 寺 泊 中 枚		才入合計	365,000 297,000	68,000 100%
村上敏夫 三岛 寺泊 寺泊中 数 丸山敏治 東須 松山 松2m中 数		≩ 歳 出		(単位千円)
加藤哲也 南蒲 采 大面中 数 ;	滴 原シズ子 三島 三島 三島の	款 別	本年度予算額前年度予算額	······································
<u>外山和子斑羽小围小眼中数</u> 筑波敬一 新生席(▲ 1 識 会 費	12,996 10,699	2,297 3.56
		2 総 務 費	73,044 59,278	13.766 20.01
*与板警察署人事異	雨のや知られ	3< 生費 4衛生費	34,066 35,177 23,826 19,938	△ 1,111 9.33 3,888 6.53
		5 労 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		△ 157 3.10
与板警察署は石山署長の勇退他幹部方々が相当転任	なされたのでお知らせいたします。	6 畏林水産業費	23,780 23,429	351 6.52
派寺 係少 監 交 外 次 署 派 泊 年 識 通 勤 職 出於 尼 巫 强 雜 2	导係少監交外次署 白 年識通勤 職			△ 499 3.80 0.824 12.44
		8土 木 費 9消 防 費	45,394 35,570 12,322 10,425	9,824 12.44 1,897 3.38
前部長安長長長長長 振 所能		10 数 育 費	78,051 44,427	33,624 21.38
長 2 2 活 活 石 出 松 谷 波 沢 百 水 山 山 太 橋 川 川 川 第 茂 武 五 武 二	安川市太島田 中上川田倉中氏入	11 災 害 復 同 費		0 -
·····································	松 貞 勇 虎 常 名 者 男 作 作 夫 作 巖	11 次 音 復 日 致 12 公 債 費 13 諸 支 出 金	24,833 23,663 11,000 8,050	1,170 6.80 2,950 3.01
		14 予 備 費	500 500	0 0.14
新 村 三 派 出 際 要 馬 駅 勇 馬 駅 勇 駅 男 駅 男 駅 男 駅 男 駅 男 駅 男 駅 駅 男 駅 町 (川 等 要 馬 駅 一 代 行 等 馬 男 駅 一 代 野 客 駅 日 一 代 野 客 駅 子 名 名 名 名 名 名 子 名 名 名 名 名 名 名 名 名 名 名	出 栃 新 村 津 栃 年県 高 尾 潟 上 川 尾 漸漸 市 部 部 部 部 御 新 子 男 署 署 署 署 署 、 次 国 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	才出合計	365,000 297,000	68,000 10070
	彩 署 長 少		· .• · ·	
使用料金表	"四月十八日オープン弥彦山スカイラ "四月十八日オープン弥彦山スカイラ "四月十八日オープン弥彦山スカイラ "四月十八日オープン弥彦山スカイラ "四月十八日オープン。 "四月十八日オープン。 "四月十八日オープン。 "四月十八日オープン。 "四月十八日オープン。 "四月十八日オープン。 "四月十八日オープン。 "四月十八日 "000 ~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~		上水道事業収益三千百七十八万円、商易水道収益二百六十〇回民健康保険診療施設特別会計が進た業会計予算は地方公営企業法にもとつな、道企業会計予算は地方公営企業法にもとつな、道企業会計予算にもあります。	©国民健康保険特別会計
車 種 別 (本 繰) (車両総重量になる区分) 間瀬〜観音寺	(支線) 彦 ります 観音寺~寺泊 山 ます	、 上の の 加 い れ ま す 、 、 た 的 収 ス た の 収 ス た の 収 ス た の 収 ス た の 取 ス の の の の の の の の の の の の の	商易水道収益二百六十	
		処の う 上 に へ 量工。事 町不 六 能事 さ費 一足 千		
ホー1.5t未満 その他 500	<u>50</u> <u>100</u> 200 イ 拿	力がらで 般額 百と急にある 会は 九		
自 1.5:以上4.0t未満 ベス型 1,300	200 7 *	な速完り計損一十一		

第 45 号	広報て	らどまり	昭和45年4月20日 (2)
NUMINIAN CONTROL NUMERAL AND CONTROL NUME	会活動費です。又議会事務局であります。	り、大部分が町議会議員の議	
第を進めるものであります。 策を進めるものであります。 定十万円で、成人病対策を加めるものであります。 に代三百八十万円であり、予防費は二百八十万円でで、成人病対策を始めるものであります。 する。以各種職を徴務項は五百七十六 する。以各種職を徴務した促進 する。以各種職を置した。 をするに置いたのであります。 に代三百八十万円でもり、 する。以各種職を置した。 に代三百八十万円でもり、 する。以各種職を定し に、 に、一百八十万円であります。 で、成人病対策を始める ものであります。 (ど)		民子四百万円であり社会福 三子四百万円であり社会福 うます。又社協委託料百四十 ち方円、さらに国保特別会計 くの繰山金百万円を含めてあ ります。	
す。このうち農業委員会費は ハー 万円で、農業総務費は八百二十三 万円で、農業総務費は八百二十三 万円で、農業総務費は八百二十三 万円で、農業総務費は八百二十三 方円で、農業総務費は八百二十三 方円で、農業団体各位と協議 をなし本年の振興費」があり、現下の 本産振興費は紅木補助等のため 森林組合に補助をなし、治山 復山事業も含め二百三十万円 であります。 水産振興費は五十一万円を 私業費は福林補助等のため 森林組合で商用、県と予	三分の11、原材料は二分の11	当額の補助があり、事務費は 当額の補助があり、事務費は 手百三十一万円であります。 「この事業費は相 あります。」 「この事業費は相	会計予算
	千三百八十七万円であり、 ている業が成立百七十万円余の この内容は五百七十万円余の であ家スカイライン完成を満 のでおります。 でに広域観光ルートの観光地	算面の接渉を進めるつもりで たついては国、県豊政の宁宇 地域に即したあり方に進めま す。	
千二百三十万円であります。 たの際勢を進めます。 この施設低の本管伏替 やたり、消防だ意要定百万円 であります。この施設費に五百十 七万円、消防だ意費に五百十 七万円、消防だ意費に五百十 七万円、消防だ意費に五百十 七万円、消防だ意費に五百十 七万円、消防だ意費に五百十 たい地域から要望のあります。 たもの地域からまれそれの 施設強化をはかり、庁舎費の うち百四十万円で常備消防署 移行の態勢を進めます。 との常説し、今まで消防団 員のご協力で宿直をして買い たものを、四十五年度からは たものを、四十五年度からは たものを、四十五年度からは	南の負担金)防波長延長、港 市る見込であります。 消防	も大市に進む見込であり、又 本岸添道路が県道に移管され す。 す。 支 雪 客対策費、河川費、砂 防費等に二百万円、港湾費は 防費等に二百万円、港湾費は	やちい、特に主要施策の実施についてはより計
七千八百万円であります。 と十八百万円であります。 して、中内訳は町内小学校二校の施設整備費さらに学校管理費等で を引着した学校管理費等で たが、これが財源に補助高 たが、これが財源に補助に して うます。 うます。 して うます。 して うます。 うます。 して うます。 して うます。 して うます。 して うます。 して うます。 うます。 して うます。 うます。 して うます。 して うます。 して うます。 して うます。 して うます。 うます。 して うます。 <td>常備消防著設置となる見通し であります。 教育費</td> <td>夜間四名で勤務をすることに しました。 電になるまでは非常出動の際 署になるまでは非常出動の際 者になるまでは非常出動の際 に読止しましたが、常設消防 はご協力を願うことに消防団 はご協力を願うことに消防団 にたが、常設消防団 にたい、常設消防団</td> <td>9 付 計 税</td>	常備消防著設置となる見通し であります。 教育費	夜間四名で勤務をすることに しました。 電になるまでは非常出動の際 署になるまでは非常出動の際 者になるまでは非常出動の際 に読止しましたが、常設消防 はご協力を願うことに消防団 はご協力を願うことに消防団 にたが、常設消防団 にたい、常設消防団	9 付 計 税
	设会計 31	意6千5百万円の構成	
議会費 3.56% 労働費 3.10% 消防費 3.38% 諾支出金 3.01% 子 備費 0.14% 動生費 6.52% 新生費 6.53%	35 35 16 5 T	1000000000000000000000000000000000000	
公領費: 6.50%: 月生費 0.33% 12.44%	20.01 %	『「、祝」 20.67 %	

